（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）　明治四十三年九月十六日（金曜日）　第五百十號

京城新報

本紙定價 [illegible]壹錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月[illegible]金貳圓▲郵税一ヶ月十五錢
日曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行（同欄）▲五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久[illegible]太
印刷人 松久[illegible]一郎
京城西[illegible]小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

雜録

漢城より

（十四日）　熊浦漁人

▲朝夕は秋の風が身に泌むやうになれり、日本の半島の秋の色は誠に以て心地好く御座候、但し人はソロソロ蟄に入るべく準備を始めたり、これのみは心細さ限り無く候。

▲由來半島の中部以北に在留せる内地人は、冬季には仕事をなすべからずとやうに思ひ做し居るは厭な量見ならずや、古來惡政に苦しめられたる半島民は秋の收穫季に於て其の年中に成さるべき總てを爲し了せたり、夫れ以上の出精は貪吏の目標となりて、却て身を殺すの災害を速く基なりとて、食ふ米の收納を以て仕舞仕舞と爲したり、内地には稼ぐに追付く貧乏無かりし時代に半島には遊ぶに目蒐くる災厄は無かりしを以て也、开を見真似ての内地人の冬籠りは聊か腑に落ざる次第にて候

▲或は此地の冬季には仕事無し、官吏などの如く、暖爐の傍に椅子を引寄せて爲し得らるべき業務を執るものは兎も角、然らざるは寒氣の爲めに何事をも爲し能はず、無余儀蟄居する所以なりと云ふもあらん、併しながら土木建築の如き、大地凍て〻術の講じやう無きものは姑らく措き、其他に何のカハリがあるべきや、口は重寶なるものながら餘り重寶に使ひ過ぎては困る也。

▲朝鮮では内地に比して大工の賃金が高し、道具が高し、飼が高しと云へども、内地にて製造したる歴々に運賃口錢をかけて此地に輸入したるをば、仕事が無しとて遊べる大工の家にて購ふなどは頗ぶる珍な行き方なり、若し冬季を殆んど遊び暮さする此の地在留の大工をして製造せしめば、大工は仕事無しといふを得ざるべく、又別に損の生ずることもあるまじ、何ぞ之れを爲さゞる、之れを爲さずして仕事無しといふも、爲さしめずして仕事無しといふも同じく口を重寶に使ひ過ぎるのなり、甚だ宜しからざることなり、這は一例を擧げたる迄のことなるが、始んど[illegible]の階級を通じての習慣叙上の[illegible]し、[illegible]すべきことにて候はずや。

雜報

韓國鐵道の將來

韓國鐵道は近く總督府に移屬したる後其建設豫定十一年計畫を改めて五年乃至六年に短縮すべしとの説あり右は併合後の産業啓發と一は軍備上の關係よりして急ぎ其建設を完了すべしとの主張に係るものゝ如く即ち短縮問題は今や漸く當局者間の攻究に附せられつゝあり然るに韓鐵の現狀は純然たる拓殖鐵道として未開地の方面に延長せる線路も尠からざる有樣にて從つて其利潤は微々たるものなるが借て將來豫定の建設を終りたる曉には果して收支相償ふ純益を擧げ得るかと云ふに朝鮮の産業的發展が本島同樣各方面に亘りて漸次隆盛に赴く場合は知らず縱令全線敷設後と雖も當分の間は到底佳良の成績を擧げ難かるべしと觀測する方至當ならん开は同地の生産狀態に於て大貨物として鐵道輸送に倚るものは米穀を除く外殆んど他に見るべき大々的生産品なく且つ米穀も生産額の約半數は同地在住者の消費する處となり内地其他に移出入する數目は如き思ひ半ばに過ぐるものあれば其輸送を唯一の最高收入とせる韓鐵の前途は到底不振と斷ぜざるべからず斯くて當然生ずべき問題は將來に於ける建設改良費の支辨に在り今日同樣一定の資金を一般會計に仰ぐべきか去ればとて新領土統治費の増大せるに加へて幾年ならず引續き其資金を支出するは政府の苦痛とする處なるべく或は此邊の事情より滿韓を聯絡して併せ經營せしむるの機會を生ずるやも知れず殊に韓鐵と云ひ滿鐵と云ひ何れも大陸的鐵道の性質を帶び系統一とよりなれば寧ろ聯合經營にて便利なるものなからん併しながら韓鐵の使命は我國土開發の一端にありて而も利益を第一義とはなすにあらざれば韓鐵の營業狀態は樂觀せざるを寧ろ懼るゝとなさんとは責任ある當局者の談なり

文苑

文學勃興の秋（下）

閑々生

歳は是れ明治四十三年なり、千載一遇の日韓併合は決行せられぬ此前後に於ける日韓兩要路者は將に政熱の爲め激衝せり、而して人民は將に繁忙なり、實業の發達と共に企業の心將に熾んなり、何者の閑者か夫れ文學界に悠々たるものあらんや、若し其れ腦裏を解剖するを得ば、文學を容るゝの餘地は果して是れありや否や。然れども是れ既に過去の事のみ皇化汎く八道を潤し人民何れも其堵に安んず、文學勃興の秋は來れり蓋し文學界の本領は情の一字にあり、而して情の一字や至大至妙、物として支配せられざるなし、只夫れ一時の事情察りて之を文學界に專注することを許さゞりしのみ、苟くも人間たる以上は蠢々たる野人も猶は歌舞することを知る、無心なる禽獸も猶諧ふことを知る、況んや文明の空氣に浴せる人間に於てをや。

半島文學勃興の秋は既に來れり、余輩は今の文學に眠きたり、世人又既に研究に志すの新局面に一顧せざる可からず、而して文學に關する新機關を設けざる可からず、讀者諸君、半島文學勃興の秋は來れり、余は余と志を同じうする士と共に、大に之が發達に努めんと欲す

講談

越後傳吉

大岡政談 第七十五回　旭堂南陵講演

庄左衛門とれはやの二人は顔を見合せ笑を含んで起上る、甚右衛門と三右衛門はまた郡奉行所を飛出しますと 甚『ねらいてとヤイ三右衛門 三『アゝ、何さいふことだらう、になつたなア、旦那どんねらい拷問にかゝつたに違ひねエだ、彼の姿を見ろ 三『さうだ旦那どんねらい拷問にかゝつて、辛抱が出來ねエから白狀したゞ、それに違ひねエだ 甚『乃公ハア入らぬことをいふたせれせんさんに安心をして赤飯でも蒸してと…… 三『汝もいへといつて、乃公だていつた、その積りでハアれせんさんが待てる處へ、小旦那は白狀して爪印口書が濟んだといふだが 甚『乃公能ういはぬぞ、れ前がいへ 三『乃公も能ういはぬ、村の衆へいひ樣がねエだ 甚『乃公も村の衆へいひ樣がねエ 三『困つたことが出來たなア 甚『マア〳〵兎も角も、寶田村へ入るとワイ〳〵何分にも氏神の前で村の者等が騷いで 甚『オイ、前通れねエ 三『前通れねエ 甚『我等を引止めて小旦那のことを聽いて[illegible]居る、村の皆にどんなことをいへとやら 三『仕樣がないから田圃路を行から 甚『さうしやう』と二人は[illegible]田圃路を横に取つて來た二人 甚『汝先つていへ 三『汝入つていへ[illegible]病人のれせんさんは吃驚して[illegible]ツ死にでもしたら[illegible]宜からう 三『ヤアれせんさん[illegible]ました 仙『ハイ、御苦勞さまでございます 甚『ヤア小旦那の身體はね……[illegible]へ 三『アノ……爪印口書が汝半分かへ 甚『ちやア乃公がいふた……濟みさ、だア……といふにより二人は戸外へバッと逃げ出した、さては旦那どんは叔父さんのいふた通り白狀なすつたか、身に覺はなくして白狀をし爪印口書をされた旦那どんは今頃どんな心持かと布團の端を摑んでヒッシとばかり口惜し涙に暮れたのは無理もございません、ところへ歸つた中村屋與兵衛 與『皆さん大きにお世話さまでございました、エイ何うも病だ溫だと御厄介になりましたれせん確乎しろ〳〵、宜いか 仙『メイ叔父さん旦那どんは爪印口書が濟みました 與『アゝさうか、それぢやア私のいふた通り旦那どんは白狀をしなすつたか、エゝ宜し〳〵、れせん、安心しろ〳〵乃公のいふた通り旦那どんが白狀したとあれば、もう拷問にかゝる氣遣ひはねエ……ウム口惜しからう口惜しいが今に敵討が出來るから確乎しろ、ヨ、汝が氣呆ちやアならねエから 仙『妾等は二人を殺して敵討を…… 與『アゝ宜い、乃公が討たしてやるから確乎しろ、與兵衛は背中を探りながられせんを宥め、丁度その翌日のお登り過ぎ ○『エ、御免なさいませ 與『アゝ何誰だね ○『中村屋さんの親方は此方に來て居なさいますか 與『アゝ居るよ ○『御免なさいと三十一二歳にもならうした何か一寸半道入といふやうな男、長脇差でもなければ素人でもないやうな姿の男 ○『親方、[illegible] 與『[illegible]晩近くて宅まで上りま[illegible]宜しくれ頼み申しま[illegible]與兵衛に[illegible]に掛つて話[illegible] 甚『親方、[illegible] 與『ヨツ、心得た、今晩のうちに立つて行くから 勝『ちやア御[illegible]、と話してそのまゝ近所の男は出掛けて行つた後を見送つた與兵衛 與『オゝ、誰でも宜いから駕籠を一挺拵へて來い、斯う〳〵いつて、奉公人に吩咐けますと暫く經つて駕籠が一挺臺所へ來ました 與『大きに若い衆御苦勞…… 若『エゝ何う致しまして 與『大急ぎでやつてくれ、 若『へ、畏まりました 與『こりやア酒代だ、首尾能うやつてくれたら後はまた向ふで出すから 若『有難うございます 與『れせん、れせん 仙『ハイ叔父さん 與『確乎しろ、サア、いよ〳〵旦那どんが有罪と決まりやア庄左衛門はやの二人は生かして置けねエ、ツラこの叔父の與兵衛が汝の手を取つて庄左衛門はやの家へ斬込み旦那どんの敵のはや、庄左衛門の首を斬落してやるんだ確乎しろ敵討に出掛けるんだ 仙『叔父さん、旦那どんは有罪に決つたか 與『さうよ 仙『旦那どんの敵は庄左衛門はれはやだ 與『アゝさう〳〵 仙『妾等敵を討つのだ、といふと我を忘れましたれせんが頻に掛つて居る髮の毛を噛みしめてヒヨロ〳〵と起立つた

東京電報

▲土木局長の任命 內務省土木局長左の如く任命ありたり（十五日）
任內務省土木局長（高等官二等） 內務省參事官 法學博士 水野錬太郎

▲國勢調査の發布 平田內相を委員長とせる國勢調査會準備委員會は人口調査に關し既に調査立案濟となり近く勅令を以て公布さるべしと（同上）

▲英國艦隊の消息 ウインゾル中將の率ゆる英國東洋艦隊は十七日巨文島に寄港十八日門司海峽を通過して十九日神戸入港二十三日横濱に入港の豫定なりと（同上）

▲練習艦隊の歸航 八代少將の率ゆる笠置、淺間の二艦は各地の巡航を終りて明十六日横須賀に歸航すべし（同上）

▲兵器事務の打合 來る十九日より二十六日迄一週間各兵器支廠長各要塞司令部砲兵部員を東京に召集して兵器事務の打合せをなし取扱に關する訓諭を爲す筈なりと 鎭遠

▲連絡船賃金改正 鐵道院に於ては併合結果關釜連絡の激增すべきを以て關釜連絡をして一層便宜ならしめんと目下種々調査中なるが客船の增加賃金の改正につき目下協議中なり（同上）

▲兩學校の卒業式 陸軍砲兵射擊學校及び陸軍獸醫學校修業證書授與式は昨十五日午前九時より擧行したるが賢き邊よりは各學校に侍從の御差遣あり優等修業者二名宛に恩賜の銀時計一個宛下賜せられたり（同上）

▲朝鮮實業家招待 東京商業會議所にては朝鮮實業家二十餘名を來る十一月招待すべし（同上）

▲兩鐵の連絡解決 露都に於て開會中なる南滿、東清兩鐵道連絡會議は兩者の意見全然一致するに至れるを以て近く圓滿の解決を見るべしと當局者は語れり（同上）

▲郵便貯金の融通 明年度郵便貯金中より各府縣に融通すべき低利資金は一千萬圓に決定せり

▲曾禰子爵の遺骸 故曾禰子の遺骸は明日片瀨に於て火葬に附し一應佛事を營みたる上東京へ廻送の筈なり（同上）

▲曾禰子邸の通夜 片瀨の曾禰子別莊には十三日夜來親戚知人相寄り通夜を行ひ頗る取込み居り（同上）

▲大阪期米電報▼
▲前場（十五日） 九月限止十四圓十八錢▲十月限止十四圓四十錢▲十一月限止十四圓五十一錢
▲後場（十五日） 九月限寄十四圓十九錢止出來不申▲十月限寄十四圓四十二錢止十四圓三十五錢▲十一月限寄十四圓五十九錢止十四圓四十七錢

▲仁川米豆取引所▼
▲後場（十五日） 十一月限一節八圓七十錢▲二節六錢五錢四錢二錢三錢二錢一錢▲二節八圓六十一錢二錢一錢▲三節八圓六十二錢三錢二錢▲出來高二千九百石

▲水產會社の活動 大日本水產會社は將來の發展を計り六萬株に對し拂込を爲さしめん事に決定したるも一部の反對者あり紛擾を重ねしが此程磯邊四郎指田義雄兩氏の仲裁にて妥協なり無事に落着を告げ引續き活動を始む（同上）

▲商船社債の好況 大阪商船會社社債三百五十萬圓の應募は概算三倍强に達したり（同上）

▲朝鮮吏員服務令 國勢調査準備委員會に於ては人口調査に關する朝鮮吏員の服務勅令を公布する筈にて下調中なるが平田內相歸京の上勅令案を審議し本會議を召集すべし

京城電報

總督府組織內容

石塚參與官が携帶し東上せる總督府官制の組織に付き確聞する所を報せんに朝鮮總督府に朝鮮總督を置き委任の範圍內に於て陸海軍を統率し一切の政務を統轄せしむるは勿論行政機關として左の八部を置く
總務部、法制部、外務部、內務部、產業部、財務部、司法部、交通部、尙は交通部の下に通信局、鐵道局を新設すと云ふ

總督府と各部長

別項の總督府各部には長官を置く筈にて左の諸氏の任命を見るべしと

總務部長官	有吉忠一
法制部長官	石塚英藏
司法部長官	倉富勇三郎
產業部長官	木內重四郎
財務部長官	荒井賢太郎
內務部長官	宇佐美勝夫
外務部長官	小松緑
交通部長官	山縣長官兼任
交通部 通信局長	池田十三郎
交通部 鐵道局長	大屋權平

特別官署の官制

中樞院の外、土地調査局、警務總監部、營林廠等は同時に特別官制として發布さるべし

朝鮮憲兵隊の獨立

朝鮮駐剳憲兵隊は從來東京憲兵隊の所管なりしが去る十日より全然分離の上獨立したる憲兵隊となり陸軍省の直轄に屬したるを以て今後は日本國內に二箇の憲兵隊が設置されたる譯なり、其結果として職員任命權の如き直接陸軍省に隸屬し職務執行に就ては朝鮮總督の指揮監督を受くるものとす而して憲兵養成機關は朝鮮の憲兵隊に具へあらざるを以て是等は東京憲兵隊と連絡を保つこと〻なるべし又朝鮮の憲兵分隊長は從來警視たる資格に於て警察事務を執行し居りたるも該條例にて別に辭令を受くることなく隊長其者の資格に於て警察事務に映掌し得るなり要する

朝鮮鐵道の分離

從來鐵道院に併合しありたる朝鮮鐵道は總督府官制發布と共に再び鐵道院より分離すべきは勿論なるが分離後は昨紙東電の如く總督府に於て山縣行政長官の下に鐵道部長を置き鐵道の建設運輸其他一切を總轄せしめ同部長には現鐵道管理局長大屋權平氏任命せらるべく同時に鐵道院官制中にある技監も名を一名に改めらるべしと

●過渡期の豫算編成 現在施行中の朝鮮總督府豫算は前韓國政府の豫算を其儘繼承し居れるが該豫算は曆年度を以て編成せられ隨つて我會計年度と其基礎を異にするを以て二十七議會に提出す可き同府豫算には四十三年度追加豫算と四十四年度總豫算との二樣に作成するの必要あり依て統監府當局者は其編成を急ぎつ〻あるも何分新官制の決定未了なる間は唯だ綱領を定むるのみにて具體的數字を計上する能はずと云ふ而して斯かる次第なれば概算の編成を了へ大藏省へ廻付し得るは十月末日に至らんと

●新官制と朝鮮官吏 新官制發布後は現在朝鮮人官吏中多數の罷免者あるべしとて憂慮し居る朝鮮人尠からざるが如きも當局の方針は施政の進步に妨げあらざる限りは成るべく朝鮮人を採用して生活上の急變を起さざらしむべしと而して朝鮮人に對しては中央地方共に參與官參事等の官職を設け其上下をして從來の名譽を保ち併せて朝鮮の爲めに盡さしむる方針なるのみならず新進有爲の輩は各其技能に應じて官途に用ゆる事依然從來と何等異なるなし故に一般に安んじて材識の涵養を怠るべからずと當局者は語る

●開城の宣敎師大會 皇城基督敎靑年會館に於て開催中なりし宣敎師大會は十三日を以て閉會したるが尙ほメッヂスト敎に屬する外國人宣敎師四十餘名は十六日より約五日間開城に於て大會を開き一年間の事業報告の作成及び來年度の新計劃に就き協議すべしと尙同會には今回特に米國本部より特派されたるビショップフォッス氏も臨席する由なり

●山縣氏と政務總監 總督府官制は未だ發表されざるも大體に於ては巷間の風聞と異ならざる由にて副總督を置かずして行政長官を設く可しとの說ありたるも現任山縣副統監をして行政長官の職名の下に就任せしむるを如何あらんかとの議も出で結局行政長官を撤して政務總監とする由

●土地測量標則發布 統監府は十五日府令第五十八號を以て土地測量標規則を發布せり其內容は測量施行の爲め設置する測標を標石、覘標、標旗とし地方官をして之を監守せしめ若し之を移轉除却毀損したる者は五十圓以下の罰金又は科料及拘留處分を受くべし

●趙重應氏等の東上 前農相趙重應氏元內閣員を代表し曾禰子の葬儀參列の爲め國分前通譯官及び前中樞院副參贊鄭丙朝を隨へ十六日午前八時南大門發車にて東上の筈なり

●李王家弔問使出發 昌德、德壽兩宮より曾禰家への弔問使前禮式課長高羲誠氏は十五日朝出發東上の途に就けり追て曾禰家への贈物其他は在東京の王世子に於て調使せらる

●憲兵隊の倉庫新築 朝鮮各地駐屯の憲兵隊大擴張せるより自然倉庫狹隘を告ぐるより今般司令部前に大倉庫を新築の由にて目下地均中

●總監部の豫算會議 總監部は四十四年度總豫算及四十三年度追加豫算編成に關し會議を開けり

●仁川民長弔電發送 曾禰子爵薨去に付き仁川岩崎民長は市民を代表して弔電を發す

●曾禰又男氏歸東 曾禰又男氏は父子爵薨去の報に接し十五日午前九時發の列車にて歸東の途に就きたりと

●大岡力氏の東上 京城日報社長大岡力氏は曾禰子葬儀參列の爲東上すと

●南大門驛乘降客 十四日の分如左
乘車客 六〇七 下車客 六七三
乘車賃金 一三六一、五一

●南大門荷物扱高 十四日の分如左
發送 七六屯 到着 三二四屯
發送賃金 七四〇、三五

●龍山驛の乘降客 十四日の分如左
乘車客 二二七 下車客 二一八
乘車賃金 二〇六、六二

●龍山驛荷物扱高 十四日の分如左
發送 二九屯 到着 三八〇屯
發送賃金 三一八、〇六

合併後の產業振興策（四）

元臺灣銀行重役 田村義次郎君談

森林を增殖して水原を涵養し、河川を修築して灌漑を便にするなどは、先づ生產上第一の要素たる土地の生產力を增さしむるものでせう、又行政、司法の諸制度を改善して、生命財產の安固を圖るのも產業を振作するに必要條件たるは云ふ迄も無いことだが、私は朝鮮に於ける產業振興策として根本的に最も有效なる方策は、生產物に交換價格即ち市價を生ぜしめ、又は市價を增さしむるに在りと信ずるのです。朝鮮には京城、平壤、大邱及諸開港場を除くの外、殆んど都市と稱すべきものが無い、人民は各地に小部落を構成し、其地の生產物を衣食の用に充て、所謂自作自給の經濟組織を成して居る有無交換など一向行はれて居ない否出來ないのだ、故に生產物も其分量に於ても其の種類に於ても或程度を超ゆれば殆んど無價値になる、商業なる經濟的行爲の行はれつ〻あるは都市のみと云つて宜しい、斯る經濟事情の下に在りては自己又は其地方の必要以上の生產を爲すも報酬を得ることは出來ない內地人が專ら都市に集中して、深く半島の內地に入り農業を企畫するもの無きは之れが爲めである、然らば如何にして生產物に市價を生ぜしめ又は市價を增さしむることが出來やうか、其方策は頗ぶる多端に涉るであらうが大要下の如きものでせう、一、道路開鑿又は改修、二、鐵道敷設、三、殊に商業地又は港灣と生產地との連絡を取るべく交通機關を設くること、四、時機を待つて關稅制度の改善を爲すこと。尙敍上の意を敷衍すれば、先づ市場として必要なるコンヂションを具備せしめて、內に市場を作るのだ、市場が無ければ市價は無い、市價が無ければ生產業の發達は出來ぬ、サテ市價が出來て其の漸次生產業が發達しても、其市場の需用を限度として今度は市價低落する、夫れでは折角發達しかけた產業も行止りになる、故に外に販路を求めねばならぬ、外に市場を求めて市價を保ち若くは增さしめねばならぬ、關稅制度の改善之れが爲めに必要だと云ふのです云々。

京城市內の民心

併合の大問題解決に次いで政社の解散命令ありたるも市內一般の民心は頗る靜穩にして孰れも生業を安んじ居れり今去る十三日より十四日午後四時までに得たる各處の情報を綜合するに

▲解散と實業家 結社の解散に對しては一般に當局者の果斷を謳歌し眞面目なる實業家等は此の如くにして始めて積年の國弊を一洗し民福の增進を期し得べしと唱へつ〻あり

▲各首領の滿足 結社團體の首領等も此擧に對し毫も不平の色なく平和協會同志贊成會國民協成會の役員等は孰れも喜色を浮べ亦西北學會の重もなるもの〻如きも將來却つて附屬協成學校並に西北人の爲めに利益ありと稱し其他の非政社團體も着實なるものは其措置を喜び其保護に信賴し居れり

▲不正團体恐怖 更に不正に金錢取得を事とする團體等は此嚴肅なる處置に對し恐怖措く能はざるもの〻如く現に其一として注意せられつ〻ありし農務組合の如き資金缺乏を名として近々解散するに到るべき模樣あり

▲耶蘇敎徒動部 耶蘇敎徒の如きも一般に時勢の推移を觀念して從來の如き危險の行動を演ずるものなく現に其多くは今回の併合を稱して自然の趨勢なりとし又外人牧師に對して吾等の敎徒となれるは國の獨立を祈らん爲めなり

解散した各結社

別項の如く解散を嚴命されたる結社其後の狀況は靜穩に整理を進捗し居れるが一進會朝鮮協會西北學會を除くの外は十五日中に遂成して其顚末を當該所轄官憲に屆出でたるが尙は以上の二會も一進會は二十一日中に朝鮮協會西北學會は十六日中に終了する筈なりと

然るに既に併合されたる今日最早信仰の必要なしとて脫會するもの頻出し居れり其他に新宗敎團を設立せんとするものあるも俄かに中止せり

烏港の不逞鮮人

露國官憲の在留不逞朝鮮人に對する取締は近來益々嚴正にして去る十二日は午前二時彼等の寢込を襲ひ茲に其八名を逮捕せしが彼等の巨魁とも目すべき李範允、洪範同、嚴仁燮の三名は遂に之を逸したりと而して襲に同地官憲の爲めに包圍せられ居る彼等の部落開拓里は追捕愈々嚴なる爲め百餘の民家殆んど逃竄して殘るは四五戶の勞働者及宿屋一戶のみとなり實に落莫たる光景を呈し居れりと云ふ

實業家の懇親會

京城商業會議所は朝鮮側實業家の機關たる商業會議所と聯合して懇親會を開き彼我の意思を此際疏通せしむる事に決定し時日は來る廿日前後なる可く場所は京城ホテルに定め當日は有吉總務長官木內參與官を招待する由にて爾後は屢次兩實業家の會合を催ふし結局兩會議所合同する事となる可しと

●師範學校設立方針 統監府は朝鮮在留の邦人學校敎師養成の爲め四十四年度豫算に師範學校を設くべく而して事敎育上の一問題に屬するを以て文部省と交涉し同省として東京に之を設けしむる事となりたるが今其方針を聞くに現在朝鮮のみにても百二十餘の小學校を有し六百餘の敎師を要しつ〻あり而して更に之を關東都督府及滿鐵所屬のものを合すれば滿鮮に於ける敎師の所要數は一千餘名を算すべし一方內地各縣の狀態を顧みれば年々多數の縣立師範學校卒業者あるも需給尙は及ばざるの有樣なるを以て政府は此際該校設立に就ては滿鮮を主として養成するに至るべしといふ

●園藝品評會の好況 第一回園藝品評會は非常に好況にて出品申込多數に上り最早豫期數を超過し陳列所も從前の計畫にては狹隘を告ぐるにより到底充分の陳列を爲す能はざる有樣なるにより目下陳列所增設の目論見中にて此分なれば開會の曉意外に多數の出品を見るに至るべしと

●水道通水式の準備 來月中旬擧行する仁川水道通水式に付き既記之通り十三日夜俱樂部樓上にて有志の協議會を開きたるが當日は模擬店を設けて來賓を饗應する事に決定

●病兵療養所の設置 東萊溫泉場は土地閑靜氣候適順なるより頗る傷病兵の靜養所に好適なるを以て軍司令部にては療養所を半永久的に設置の計畫にて佐藤軍醫正は位置選定の爲め同地に出張したる由

●北清經由船の檢疫 上海及び北清地方に於ては虎列拉病流行せるより同地方を經由して仁川に入港の船舶に對しては此程より同港に於て檢疫を行ひ居れり

●釜山の水道事務所 內部土木水道事務所は工事完成したるも尙は殘務整理中にて終了迄には二ケ月を要すべし同地引揚期は十一月中旬なるべしと云ふ

●韓國銀行重役會議 併合の結果韓銀の組織上多少の變動あるべきは必然の數なるが夫かあらぬか十五日韓銀に於ては各重役を會し何事か重要なる問題に就き審議する處ありと

●京城會議所役員會 十六日午前九時より京城日本人商業會議所にて役員會を開き實業家懇親會及び店員勤續功勞者調査の件に付協議すると云ふ

●李根培釋放と南舛 趙南舛と共に或る犯罪嫌疑者として拘禁されたる李根培は十四日釋放されたるが趙は依然入牢中なりと

●四慈惠醫院の開始 水原慈惠醫院は九月五日より公州同上は九月五日より平壤同上は九月六日より大邱同上は九月七日より開始したり

●仁川の招魂祭執行 來る廿日頃仁川柳町陸軍墓地に於て招魂祭を執行する由

●德富蘇峯氏の來京 國民新聞社長德富蘇峯氏は朝鮮視察の爲め十六日午後八時南大門着入京の筈

●中村旅團長の出發 第三旅團長中村少將は十四日午前九時二十分發列車にて黃州へ赴けり

▲京城手形交換高▼
九月十五日 金高 六八、八三二、五二圓 枚數 二六六

▲仁川米豆取引所▼
▲前場（十五日） 十一月一節八圓六十九錢七十錢一錢七十錢六十九錢八錢九錢▲二節六十九錢八錢九錢七十錢三錢四錢▲三節七十二錢三錢二錢七錢六十九錢七十錢六十九錢▲出來高一方三千六百石

▲大阪期米電報▼
▲前場（十五日） 九月限寄十四圓十八錢▲十月限寄三十六錢▲十一月限寄五十錢

▲仁川港の出入船舶▼
▲東都丸 十六日樺太大湊より入港
▲安東丸 大連より入港
▲長州丸 横濱より入港
▲安東丸 十六日午後五時長崎へ出向
▲長州丸 同午後四時大連へ向出港

公人私人
▶前川益次（工學士） 十四日浦尾投宿
▲中村利器太郎（三越吳服店大阪支店長） 十四日入京山本旅館に投宿
▲佐々木正太（平壤財務監督局長）歸任
▲三增久米吉（馬山理事官）十五日入京
▲畑尾健次（やまと記者）十五日歸東

▲治外法權▼

曾禰前統監の薨去は悲痛の出來事として當地一般の社會に迎へられた、子爵の生前に知を辱ふし、恩顧を受けたる輩は勿論の事、子爵の施政に嫌焉たりし輩と雖も此際謹みて哀悼の意を表するが禮だ、故伊藤統監の時の例もあれば當地の官民は子爵埋棺の當日嚴肅なる追弔會を催ふすべした▲政友會は朝鮮總督を軍人に限るとの官制案に反對を決議したソウだが如何にも尤もな事だ、軍人出身者の都合の良いときもあれば文官出身者の都合の良いときもある、何も軍人に限ると態々撰擇の範圍を狹くしないでも良いではないか▲何も物知り顏に外國の例を引出す譯ではないがフキリピン、印度、南阿、オーストラリヤ、カナダ其他の總督は文官出身者を充つる事が通則となつて居る、時に軍人出身者の充てらる〻事もないではないがソレは除外例だ▲右に反して軍人出身者を總督にするのを例にして居るのがフランス、スペイン其他のラテン諸國のロシヤだ、馬上で取つたものを馬上から治めんとする、到底失敗に了らざるを得ない▲加之ならず軍人總督失敗の結果は延ひて其累を軍隊にまで及ぼす、ロシヤ、スペイン、フランス等の軍隊が如何なる累を軍人總督から受けたかは歷史上明かな事實だ▲若しも朝鮮總督には今の寺內將軍の如き或は故兒玉將軍の如き人々のみを得らる〻とキマッて居れば軍人總督も良いかも知れぬ、併し軍人だからと云つて英傑ばかりとは限らぬ、思ふにアレキセーフ程の馬鹿でないとしても萬一彼れの十分一程の馬鹿者が總督になることがあつたらソレコソ我朝鮮はドウなる▲軍人に限るとか文官はイケないとか特に官制にキメルのは抑も融通の利かぬ話だ、記者は文武何れからも時の便宜に從つて總督をトルが良いと思ふ、寺內將軍はドウ思ふか▲朝鮮總督に法律制定權委任の事も大分八ケ間敷い樣だ、併し餘り長くなるから暫く事を明日に讓らう▲普通の輕氣球に舵を附け、三遍廻つて辭儀をなし、山田式飛行機とは何の事だ、コンナ物なら西洋には三十年以前にあつた▲娼妓上りの富貴樓お倉婆を偉らいの何のと其死を傳ふる東京の社會はアキレル程に品格が低い▲南大門內の道幅が今の儘では人命に危險だ、其筋は取擴げを急がずばナルマイ。

大阪期米電報

▲前場(十五日)九月限止十四圓十八錢▲十月限止十四圓四十錢▲十一月限止十四圓五十錢▲九月限寄十四圓十九錢▲後場(十五日)出來不申▲十月限寄十四圓四十二錢止十四圓三十五錢▲十一月限寄十四圓五十九錢止十四圓四十七錢

仁川米豆取引所

▲後場(十五日)十一月限一節八圓七十錢六錢五錢四錢二錢三錢二錢一錢▲二節八圓六十一錢二錢一錢▲三節八圓六十二錢三錢二錢▲出來高二千九百石

朝鮮鐵道の分離

曩に鐵道院に併合したる朝鮮鐵道は總督府官制發布と共に再び鐵道院より分離すべきは勿論なるが分離後は昨紙東電の如く總督府に於て山縣行政長官の下に鐵道部長を置き鐵道の建設運輸其他一切を總轄せしめ同部長には現鐵道管理局長大屋權平氏任命せらるべく同時に鐵道院官制中にある技監なる名を一名に改めらるべしと

解散したる各結社

解散を嚴命されたる結社其後の狀況は別項の如く靜穩に整理を進捗し居れるが一進會朝鮮協會西北學會を除くの外は十五日中に逐成して其顚末を當該所轄官憲に屆出でたり尙は以上の二會も一進會は二十一日中に朝鮮協會西北學會は十六日中に終了する筈なりと

花柳界の革命(二)

▽策士連の新統監歡迎

會禰前統監病を獲て其の療養の爲め內地へ歸られてから京城の人達の中に二つの說が行はれた、即ち一は會禰さんの病氣は必ず快くなつて早晚歸つて來られるであらう、然すれば會禰さんの懷抱せらるゝ產業政策は實行せられて同時に景氣も出る而して其の餘澤は花柳界にも及ぶだらうと云ふのだ、一つは會禰さんの病氣は不治のだから後任者には乾度偉い人が來られるに違ひない、會禰さん以上に產業政策を實行せらるゝに相違ない、然うなれば新統監の歡迎だ何だのと矢張り花柳界は賑ふに相違ないと、何れに轉んでも至極都合の好い解釋を下して此の來るべき好景氣を取り逃さぬ準備に取り掛つた、之に第一大切なものは家屋即ち座敷其のものであると云ふので淸華亭の如き曾つては溫突斗りであつたのに更らに日本家屋を新築した、又翡翠は火災に遭ふたを機として現在の大家屋を建設した、翡翠や淸華亭は斯くて其準備はなつたのだが此時には未だ花月井門其の他の料理店では傳へられたる上景氣に對する準備は出來て居らなかつた、其所へ突然顯れたのが中村某の計畫に依つて元仁川一山樓を移した旭町の高臺に京城滿市を瞰下せる堂々たる大樓萬千閣である、從來當地の料理店には庭園とか眺望とか云ふものは無視されて肉慾一方のものであつた、處が此の万千閣は何うである庭園は廣し眺望は佳し座敷には百疊敷の大廣間もあると云ふ風に新時機の要求に投合すべき設備は充實されてある、既に淸華翡翠の增新築に依りて一方ならぬ壓迫を感じて居る所へ更らに此の万千閣なる大勁敵の出現を見た他の料理店でも最早ウカウカして居れぬと云ふ所から花月の如きは急に百疊敷を建增した、井門は舊家屋を破壞して彼の堂々たる新館に取り掛つた、松葉又敢て人後に落ちんやの格で座敷を建增した、所で此の建增し費用新築資金は彼の好景氣なりし時代に儲け出してあつた所謂蓄財であるか又は借金して作つたものであるかと云ふを聞くに情け無いことには悉く後者であると云ふことである、扨家屋の工事が段々進行するに伴れて各料理店どもは新妓の抱入れを同業者には秘密で非常の運動を內地に於て開始した、恰も此の際內地より會禰さんが辭職して軍人たる寺內統監が來られると云ふ一事が傳はつた、ご同時に寺內さんの手に依りて合併が遂行さるゝと云ふことをも傳へられた、此れを耳にした策士どもは我事成れりと喜んだ、寺內さんと云へば東京の花柳界でも相當巾を利かせて居らるゝと云ふ事は新聞で見て居た、然れば寺內さんにして着任されたならば盛大な宴會が續くことであらう、從つて花柳界は景氣が付くこと大丈夫だ、大地を打つ槌は外るゝとも此の見込だけは決して外るゝ氣遣ひなしと鼻ウゴメかして一日も早く寺內統監の來着を希望して居たのであつた

恐ろしき八千代の引力

▽仲の新地梅の家の事

仲の新地梅の家に去る頃抱へられたる藝妓八千代となん申すが侍り申すが此の人の生れ故鄉と申すは島根縣石見の國那賀郡備後と石見の國境に源を發したる江川の水が日本海に流れ出づる其の川口の江津の港にて十六七の頃より土地の藝妓家何某に養はれ鰐や鰊の脂臭い漁夫相手に大は小を兼ねるの比喩通り三味線を枕に代用して大に發展して居る間惜からぬ人さと思ふのが濱崎、吉野、中村、三人も出來たる中にも吉野と云ふは同地の小學教員なりしも同人に惚けたる爲め放逐され遂には壯俳となり下り先頃は當地にも來りて京城座回りの白首子守には大に信用を博したる事のある男なるが當地打ち揚げ後は一旦內地の田舍廻りをして居たが此の頃になり再び渡來し相變らず京城座の舞臺に眼を剝いたり鼻を歪めたりして官舍の下女や子守の御機嫌を伺つて居る男だが何うした機會でか例の八千代が梅の家に居ることを聞き付けて盛んに尻を逐ふて以前の變情になつて呉れと口說立てゝ居る所へ濱崎と云ふのも八千代戀して先月尻を逐ふて渡來し此れ又同し文句を繰返し双方睨み合つて居る所へ又候中村と云ふが去る十三日と云ふに追ひ驅け來り茲に三人猛烈に競爭を初めたるにぞ八千代は其の鼻を發電所の煙筒程に高くし石炭の煙の如な鼻息を吹き妾しの如なれ多福がマア何所が美いんだらうねと謙遜の外皮を掛けて自慢して居たとて敢て新聞社に利害關係のある譯けではないが茲に頭痛鉢卷して居る人があるなり夫れは抑も誰れかと云ふに誰れでもない梅の家の亭主殿乾度今に後悔に突き飛ばされる如なことが出來るに相違ないから今の間に鞍替へさせるに限ると盛んに下駄を減らして驅け回つて居ると云ふ芽出度し〳〵

養父と養女 後日の聞書

▽愛情を盡された養父

去る十四日の本紙に『養女を情夫に從はる』と題して鈴木知之助が情婦上田あきと手に手を取り當地に渡來したるを養父吳の搜索及歸國方說諭願出により兩人とも南部署に召喚取調べを受けたることは既報の如くなるが十三日養父吳は京城に來り否が應でも娘を引き連れ歸らんものと龍山柳町一丁目一番戶松葉亭に伴ひ賺し慰めて歸國方を勸めしもあきは何しても歸るのは嫌と頭を橫に振りドウで賣らるゝ身体なら此の京城で三年五年は愚かなこと十年でも一生でも思ふ存分叩き賣つて下され決して嫌とは申ません何處で賣つても入る金錢に代りはありますからと思ひ切つたる言葉に流石の吳も手の附け樣なく手甲擦りしも兎に角一度は何うでも歸國せしめんものと同日午後五時發下り列車にて大邱迄行かんと嫌がるあきを無理やり引つ立んとせしに彼れは一所懸命悲鳴を上げ傍に居りし大山茱と云ふに嚙り附きしも遂に驛迄引摺り行かれしが其の時は既に列車の出發後なりしより止むを得ず夜行を待たんと驛前の待合所旭屋にて休息中八時頃に至り何う隙を見出せしものか突然あきは姿を晦したるにぞ上田の驚き一方ならず的切り是れも情夫の指し金ならん血眼になり停車場に見張り居りし處へ之れに又情婦のあきが養父に連れられ歸國せしものとのみ思ひ込み然らば用なき京城に一人止まらんは心苦しさ門司迄の切符を買ひ求め同驛より夜行に乘らんとて來りし知之助を見付けたるより夫れとは知らず引き止め俺の娘を何處へ匿したサア出せ〳〵と喰つて掛つた始末に知之助は眼ばかりパチ〳〵させて居るにぞ尼鬼となつて掛合つても知らぬ存せぬの一天張りに漸く然うでなかつたと知れ前記の一伍一什を打ち開け知之助共々松葉亭に引つ返し十四日中も善後策につき協議中なりとは能く〳〵娘に愛情を盡かされた養父殿にこそ

●醉た上の無分別

香川縣高橋市丸龜町三十五番地當時明治町三丁目五十五番戶理髮職三木長松(二四)は同業者二名と共に永樂町一丁目料理店壽亭にて懇親會と洒落れ十三日午後九時頃より十時過まで飲酒し夫れより朝鮮蝎甫を素見さんと三人連れにて南部薫陶坊亭洞七十統一戶酒幕徐景光(三六)方に至り娼妓金姓女(二二)を出さしめ飲酒を爲す內外二人の同業者は立ち去りたる後計算となりしに自分は一錢も懷中せざるに因り自分宅迄來れと云ひしに徐昌光は金錢所持せずして飲酒したる不法を主張し互に口論中隣室にて飲酒爲し居りたる朝鮮人出で來り三木に暴言を吐き喧嘩を初め騷動を演じ居る所へ巡廻の憲兵立ち入り鎭撫し銅峴分署に引致し同署に於て双方共說諭放還

●過料處分の即決

本町六丁目二番戶下川雜貨店雇人山內文二(二〇)山內喜代吉(三一)の兩人は十四日午前六時四十分南大門通り會洞派出所前街路に荷車を放置し交通を妨害せしに因り過料金五十錢に吉野町七十三番戶野菜商野々村荷三郞(三〇)は日ノ丸魚市場前街路に荷車を放置し交通妨害過料金五十錢に何れも南部署に於て即決言渡さる

●橫着極る遊興客

南部紫巖洞車順昌(三八)は八月十五日午後六時頃友人三四人連れ蝎甫屋孫與植方に至り娼婦紅桃を敵妓に飲酒し十七日迄流連して九圓九十三錢の計算となり懷中無一毛にて自分は南大門外ペンキ屋某に金十八圓の債權あるから差引き呉れと稱し同伴債權者と話合の上一應落着せしに車順昌は其後金を受領し乍ら支拂はぬにより南部署に告訴せらる

●被害者なき盜品

去る十二日崔聖文(二四)なる者擔軍夫を裝ひ南大門驛構內に潛入せる擧動不審に付南部署刑事に引致され取調の結果十圓紙幣二枚五圓紙幣一枚一圓紙幣二枚二十錢銀貨二枚入黑色二つ折革製財布を掏摸盜りたる旨自白せしも被害者不明に付心當の者は南部署に問合すべしと

●龍山雜事

龍山署にては十四日第一種料理店飲食店池上善之助外十二名を召喚し營業上に就き衞生に關する便所消毒、唾壺の設備其外雇女の屆出遊廓指定地に引移らんとする者の屆出期限及び抱酌婦の取締勵行方針等の示指ありたり▲新龍山第二憲兵隊は去九日料理店の移轉を示指せし所京城山下町一丁目一新事有本つるゑ、同所花家事鹽崎せい、同所今春事吉村金太郞柳町一丁目一番松葉事出口いよのは期限內に中の新地と合併するとの事新龍山は益淋しくなるであろう

目と耳

▲壽座 今樣能樂十六日代番組如左 俊寬(泉茹三郞、森岡義三、大高一郞、瀨尾平也、守田信光)熊野(泉房、森岡義三、大高一郞、瀨尾平也、守田信光)望月(泉薫、森岡義三、大高一郞、石田熊吉、瀨尾平也、守田信光)小鍛冶(泉薫、水野雄益、大高一郞、石田熊吉、瀨尾平也、守田信光)『狂言』鷄聟、昆布柹、御田、棒縛(附祝言)

▲浪花館 金馬一座十六日代番組 四の字きらい(金平)ゆび寫し繪獅子の曲(金遊齋)常盤津並に浮世節(小つま)近所養家(市馬)日高川(金勝)香曲手れどり(金登喜)人情噺前夜の續き(花圓遊)曲鑿水の曲(龜治郞)尺八曲(花堂)萬年靑違ひ(金馬)大切新作喜劇即席問答總踊り

▲平民文壇▼

▲來る秋季皇靈祭は合邦後最初の祭日であるから當局は朝鮮人に我國旗を給與して之を掲げしむるとの事吾等も深く之れを賛するので特に僕が切望するは此の際日本人の家には悉く國旗を掲げて貰ひたいのである朝鮮人から日本人だつて國旗を出さぬ家もあるではないかと掲吊を等閑に附する樣な事があつてはならぬからである(はの字)▲壽座の今樣能樂を見たが謠曲の素養なきものにも理解することが出來る狂言に至つては泉茹三郞師の輕妙なる技に感服せざるを得ぬ(への字)▲京城は此の頃ヤット納豆らしい納豆が出來る樣になつた而して價も安くなつた相だ即ち三本五錢とか(立聞生)▲百日咳に篠原不死劑なるものが大層利き目があるとの投書があつたが果して何うかしら(係)▲二葉亭の酌婦は皆んな引き眉毛をして居るので凄く見へる併し癩病で脫けたのではあるまい(實見生)▲鐘路の名月館の後庭の樹の上に眞赤な人魂が出ると聞いたので見に行つたら何んのこつた赤い電球だつた(叱樞生)▲布德門(德壽宮)の前の車夫溜り所には眞正面に大時計を掲げて居るが短針も長針も無いから時間が判らないのが殘念だナ(通行人)▲日韓併合成立に就ては畏多くも聖上陛下は賢所及び伊勢大廟に奉告祭を行はさせられた人民側にありても大神宮を奉祀せる地にては何處にても奉告式を行つた然るに仁川太神宮には未だ此の事がない神官の間拔けか人民の冷淡なのか(仁川居住民)▲芳香原料品で一番貴重高價のものは龍涎香(洋名アンバグリス)は一斤(百六十匁)が八百圓▲之は海中に浮いてゐる鯨の分泌液ださうで容易に得る事が出來ないから高い▲次に高價なものは麝香で一斤が七百八十圓▲之は麝獸の臍と陰部との間にある袋から採るもので支那西藏の山中に住する物から精製した雲南麝香と云ふのが最も良い▲其他菫(バイオレット)の花油は佛蘭西製のものがよく一ポンド三百六十圓▲薔薇(ローズ)は土耳古のカザンリック製上等が同じく三百圓である相な併し龍涎香と云ひ麝香と云ひ皆陰部に緣があるのが不思議だ▲花は植物の陰部であると云ふのは夫れから子である實を結ぶではないか▲大切にせねばならぬのは陰部だナ(風聞子)

社告

併合記念號近日發刊

京城新報社

今日の運勢

九月十六日舊八月十二日 四綠●先勝 甲申 閉 十方くれ△一白●金屬の業務に吉衝突不和紛爭を避くべし△二黑●賣買貸借見込違多き日とす新事旅行見合せの事△三碧●新事見合せの事交際上紛爭を生じ易し△四綠●部下配下の者より損害受け易し諸事手控への事△五黃●新事婚談集團及取引金品授受に故障起らんとす△六白●起業開店旅行移轉連盟訂約見合せたるべし遺失防ぐべし△七赤●諸事手控への事酒色の害を愼しみ負傷衞生注意すべし△八白●婚談豫約謀議探險會商組合の事に忌む遺失防ぐべし△九紫●貸借金談婚姻賣買取引進んで吉知友の事累煩あり(本町五丁目三一館判斷)

●天氣豫報

(自十五日午後六時至十六日午後六時)

西風 晴

十四日(華氏) 最高溫度 七五、九 最低溫度 六〇、八

